ＬＥＣ東京リーガルマインド

2025年度 税理士受験対策

簿財横断講座

実力確認テスト 第１回 簿記論

問　題

〔注意事項〕

1．試験官の「始め」の合図があるまで、試験問題の内容は絶対に見てはいけません。

2．この試験の解答時間は、「始め」の合図があってから正味２時間です。

3．試験時間終了前に受験を終了すること（途中退室）は認めません。

4．「やめ」の合図があったら直ちにやめてください。

5．試験問題及び計算用紙は提出する必要はありません。

6．答案の作成には、必ず黒又は青のインキ(ボールペンを含む。以下同じ。)を用いてください。修正液又は修正テープの使用は認めます。鉛筆、赤のインキ、消せるボールペン等の修正可能な筆記具を用いてはいけません。黒又は青のインキの筆記具以外のもので記入した答案は採点されません。

7．答案用紙は無解答の場合も回収しますから、答案用紙に受験校、受講証番号、氏名を必ず記入してください。

8．答案用紙はホチキス留めから絶対に取り外さないで下さい。答案作成に当たっては、答案用紙のホチキス部分を折り曲げても差し支えありませんが、外さないように注意してください。

9．解答は必ず答案用紙の所定の欄に明瞭に記載してください。所定の欄以外に記載されているものは、採点の対象としません。

なお、答案用紙及び計算用紙の再交付、追加交付はしません。

10．試験問題の内容についての質問にはお答えしません。

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
© 2024 TOKYO LEGAL MIND K. K.， Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。

0 000821 250394
HU25039

〔第一問〕－25点－

当社（会計期間：暦年）の下記資料に基づいて、当期に関する以下の各問に答えなさい。

問１　次の①～③の金額を示しなさい。

①　開始手続の合計額

②　仕訳帳の一次締切の合計額

③　仮に当社が準大陸式簿記法を採用していた場合の開始手続の合計額

問２　決算整理前合計試算表を作成しなさい。

問３　決算整理後残高試算表を作成しなさい。

問４　損益勘定及び決算残高勘定を作成しなさい。

（留意事項）

１．当社は記帳方法として純粋大陸式簿記法を採用している。

２．期間計算は月割りで行う。

【資料１】　前期末の決算整理後残高試算表（便宜上、損益科目は一括して示している。）

残　高　試　算　表　　（単位：千円）

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金	13,080	買掛金	1,450
売掛金	2,980	未払管理費	20
繰越商品	860	備品減価償却累計額	600
前払販売費	50	資本金	15,000
備品	2,000	繰越利益剰余金	400
諸費用	14,540	諸収益	16,040
	33,510		33,510

【資料２】　当期の期中取引

１．商品21,950千円を掛で仕入れた。

２．商品31,000千円を掛で売り上げた。

３．売掛金30,880千円を当座振込により回収した。

４．買掛金21,450千円を小切手を振出して支払った。

５．販売費5,724千円と管理費1,970千円を当座預金より支払った。

６．４月１日に期間２年、利率年４％、利払日は３月末日と９月末日の年２回（後払い）の条件で2,500千円を借入れ当座預金に預入れた。

７．９月末日に上記６．の借入れに係る利息を現金で支払った。

【資料３】　当期末の決算整理事項

１．期末商品

帳簿棚卸高：　1,110千円（減耗等は生じていない。）

２．決算日における現金実査

帳簿残高：　556千円

実際有高：　565千円

差異の原因は不明である。

３．備品の減価償却計算

残存価額：　０円

耐用年数：　５年

減価償却方法：　定額法

４．経過勘定項目

前払販売費：　30千円

未払管理費：　40千円

その他：　当期中の借入れに係る利息について整理する。

2025税理士講座

（必ずホチキス留めをしたまま提出して下さい。）

簿財横断講座　実力確認テスト 第１回 簿記論

答案用紙

受験校	受講証番号	氏名	合計点	第一問	第二問	第三問

〔第一問〕

問１

① ＿＿＿＿＿＿ 千円

② ＿＿＿＿＿＿ 千円

③ ＿＿＿＿＿＿ 千円

問２

合計試算表　（単位：千円）

借方合計	勘定科目	貸方合計
	現金預金	
	売掛金	
	繰越商品	
	前払販売費	
	備品	
	買掛金	
	未払管理費	
	借入金	
	備品減価償却累計額	
	資本金	
	繰越利益剰余金	
	＿＿＿＿＿＿	
	売上	
	仕入	
	販売費	
	管理費	
	支払利息	
	合計	

ご記入いただいた個人情報は、成績発表、答案の公表等当社のプライバシーポリシー（http://www.lec-jp.com/privacy.html）に従って使用させていただきます。

0 000821 250400

HU25040

問 3

残　高　試　算　表　　（単位：千円）

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金		買掛金	
売掛金		未払管理費	
繰越商品		未払利息	
前払販売費		借入金	
備品		備品減価償却累計額	
仕入		資本金	
販売費		繰越利益剰余金	
管理費		売上	
支払利息			

問 4

損　　益　　（単位：千円）

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入		売上	
販売費			
管理費			
支払利息			

決　算　残　高　　（単位：千円）

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金預金		買掛金	
売掛金		未払管理費	
繰越商品		未払利息	
前払販売費		借入金	
備品		備品減価償却累計額	
		資本金	
		繰越利益剰余金	

解　答（●数字は配点を示す。）

〔第一問〕－25点－

問１

① 38,010 千円 ❶

② 153,534 千円 ❶

③ 19,040 千円 ❶

問２

合　計　試　算　表　　（単位：千円）

借方合計	勘定科目	貸方合計	
46,460	現金預金	29,194	❶
33,980	売掛金	30,880	❶
860	繰越商品		❶
50	前払販売費	50	❶
2,000	備品		
21,450	買掛金	23,400	❶
20	未払管理費	20	❶
	借入金	2,500	
	備品減価償却累計額	600	
	資本金	15,000	
	繰越利益剰余金	1,900	❶
18,970	開始残高	18,970	❶
	売上	31,000	
21,950	仕入		
5,774	販売費		❶
1,970	管理費	20	❶
50	支払利息		❶
153,534	合計	153,534	

問3

残高試算表　（単位：千円）

	借方科目	金額	貸方科目	金額	
❶	現金預金	17,275	買掛金	1,950	
	売掛金	3,100	未払管理費	40	
	繰越商品	1,110	未払利息	25	
	前払販売費	30	借入金	2,500	
	備品	2,000	備品減価償却累計額	1,000	❶
❶	仕入	21,700	資本金	15,000	
❶	販売費	5,744	繰越利益剰余金	1,900	❶
❶	管理費	1,990	売上	31,000	
❶	減価償却費	400	雑収入	9	❶
❶	支払利息	75			
		53,424		53,424	

問4

損益　（単位：千円）

	借方科目	金額	貸方科目	金額
	仕入	21,700	売上	31,000
	販売費	5,744	雑収入	9
	管理費	1,990		
	減価償却費	400		
	支払利息	75		
❶	繰越利益剰余金	1,100		
		31,009		31,009

決算残高　（単位：千円）

借方科目	金額	貸方科目	金額	
現金預金	17,275	買掛金	1,950	
売掛金	3,100	未払管理費	40	
繰越商品	1,110	未払利息	25	
前払販売費	30	借入金	2,500	
備品	2,000	備品減価償却累計額	1,000	
		資本金	15,000	
		繰越利益剰余金	3,000	❶
	23,515		23,515	

解　説

〔第一問〕（単位：千円）

解答上のアドバイス ①

本問では、「前期末(当期首)の勘定残高」に基づき、「期中取引」及び「決算整理事項」について会計処理を行い、最終的に「損益勘定」及び「決算残高勘定」を作成する。

解答上のアドバイス ②

期中取引(特に商品売買に係る取引)が多数ある場合は、勘定を用いると効率よく資料整理が行えることが多いが(〔第三問〕解説参照)、本問程度の取引数であれば、仕訳による資料整理でよいであろう。

Ⅰ　前期末の資本振替

解答上のアドバイス ③

「決算整理後残高試算表」の「繰越利益剰余金」勘定の金額は、資本振替前の金額である。よって、「繰越利益剰余金」勘定の前期末残高（＝当期首残高）は、各自計算する必要がある。

＜前期末に行われた仕訳＞

(借)	損　益	1,500	(貸)	繰越利益剰余金	1,500 (*)

(*)　前期の純利益：諸収益16,040－諸費用14,540＝1,500

→　繰越利益剰余金前期末残高：前期末後T/B 400＋前期の純利益1,500＝1,900

Ⅱ　開始手続

1．開始仕訳

(借)	現金預金	13,080	(貸)	開始残高	18,970
	売掛金	2,980			
	繰越商品	860			
	前払販売費	50			
	備品	2,000			
(借)	開始残高	18,970	(貸)	買掛金	1,450
				未払管理費	20
				備品減価償却累計額	600
				資本金	15,000
				繰越利益剰余金	1,900 (*)

(*)　上記Ⅰより。

解答上のアドバイス ④

解答上の資料整理としては、「開始仕訳」を行う必要はなく、期首における各勘定残高が確認できていればよい。なお、「開始残高」勘定の金額は、各自計算しておく必要がある。

（現金預金13,080＋売掛金2,980＋繰越商品860＋前払販売費50＋備品2,000＝18,970）　又は、

（買掛金1,450＋未払管理費20＋備品減価償却累計額600＋資本金15,000＋繰越利益剰余金1,900＝18,970）

2．再振替仕訳

(借)	販売費	50	(貸)	前払販売費	50
(借)	未払管理費	20	(貸)	管理費	20

問１①　開始手続の合計額

「開始手続」＝「開始記入」＋「再振替記入」

よって、上記Ⅱ　1．開始仕訳及び2．再振替仕訳より、18,970×2＋50＋20＝38,010

問１③　準大陸式簿記法を採用していた場合の開始手続の合計額

仮に準大陸式簿記法によった場合の開始仕訳は、次のとおりである。

(借)	現金預金	13,080	(貸)	買掛金	1,450
	売掛金	2,980		未払管理費	20
	繰越商品	860		備品減価償却累計額	600
	前払販売費	50		資本金	15,000
	備品	2,000		繰越利益剰余金	1,900

よって、18,970＋50＋20＝19,040

又は、38,010(問１①の解答)－18,970(開始残高勘定)＝19,040

Ⅲ　期中手続

1．	(借)	仕入	21,950	(貸)	買掛金	21,950
2．	(借)	売掛金	31,000	(貸)	売上	31,000
3．	(借)	現金預金 －当座預金－	30,880	(貸)	売掛金	30,880
4．	(借)	買掛金	21,450	(貸)	現金預金 －当座預金－	21,450
5．	(借)	販売費	5,724	(貸)	現金預金 －当座預金－	7,694
		管理費	1,970			
6．	(借)	現金預金 －当座預金－	2,500	(貸)	借入金	2,500
7．	(借)	支払利息	50 (*)	(貸)	現金預金 －現金－	50

(*)　$2,500 \times 4\% \times \frac{6カ月}{12カ月} = 50$

問１②　仕訳帳の一次締切の合計額

上記Ⅱ及びⅢより、開始手続合計38,010＋期中手続合計115,524(*1)＝153,534

又は、合計試算表(問２)の合計額より、153,534(*2)

(*1)　21,950＋31,000＋30,880＋21,450＋5,724＋1,970＋2,500＋50＝115,524

(*2)　大陸式簿記法では、仕訳帳の一次締切の合計額と合計試算表の合計額は一致する。

Ⅳ　合計試算表の作成

上記Ⅱ及びⅢの金額を集計して、**問 2** 合計試算表を作成する。

解答上のアドバイス ⑤

問 2 で作成するのは「残高試算表」ではなく、「合計試算表」である点に注意する。

「現金預金」勘定を例に金額集計をしてみると、次のとおりとなる。

借方合計：当期首残高13,080＋30,880＋2,500＝46,460

貸方合計：21,450＋7,694＋50＝29,194

なお、「繰越商品」勘定や「備品減価償却累計額」勘定のように、期中に変動がなかったものは、期首残高をそのまま記載することになる。

解答上のアドバイス ⑥

前期末に計上された経過勘定項目は、当期首の再振替記入により残高はゼロとなる。ただし、合計試算表には、開始記入と再振替記入の金額が、貸借同額で記載される点に注意すること。

前払販売費

開始残高	50	販売費	50

未払管理費

管理費	20	開始残高	20

Ⅴ　決算整理

1．	(借) 仕入	860		(貸) 繰越商品	860
	(借) 繰越商品	1,110		(貸) 仕入	1,110
2．	(借) 現金預金 －現金－	9	(*1)	(貸) 雑収入	9
3．	(借) 減価償却費	400	(*2)	(貸) 備品減価償却累計額	400
4．	(借) 前払販売費	30		(貸) 販売費	30
	(借) 管理費	40		(貸) 未払管理費	40
5．	(借) 支払利息	25	(*3)	(貸) 未払利息	25

(*1)　実際有高565－帳簿残高556＝9　(実際有高 ＞ 帳簿残高 → 雑収入)

(*2)　2,000÷５年＝400

(*3)　$2,500 \times 4\% \times \frac{3カ月}{12カ月} = 25$

以上の処理が済んだ段階で、**問 3** 決算整理後残高試算表を作成する。

解答上のアドバイス ⑦

決算整理後残高試算表(**問 3**)には、合計試算表(**問 2**)に基づき、「決算整理仕訳」を反映させた上で、各勘定の残高を記載する。

「管理費」勘定を例にとると、次のとおりとなる。

1,970(借方合計)－20(貸方合計)＋40(見越)＝1,990

Ⅵ　決算振替

1．損益振替仕訳

(借)	売上	31,000	(貸)	損益	31,009
	雑収入	9			
(借)	損益	29,909	(貸)	仕入	21,700
				販売費	5,744
				管理費	1,990
				減価償却費	400
				支払利息	75

2．資本振替仕訳

(借)	損益	1,100 (*)	(貸)	繰越利益剰余金	1,100

(*)　当期純利益：収益合計31,009－費用合計29,909＝1,100

→　繰越利益剰余金当期末残高：当期末後T/B 1,900＋当期純利益1,100＝3,000

解答上のアドバイス ⑧

当期純利益は、損益勘定(**問4**)の貸借差額で算定するとよい。

3．残高振替仕訳

(借)	決算残高	23,515	(貸)	現金預金	17,275
				売掛金	3,100
				繰越商品	1,110
				前払販売費	30
				備品	2,000
(借)	買掛金	1,950	(貸)	決算残高	23,515
	未払管理費	40			
	未払利息	25			
	借入金	2,500			
	備品減価償却累計額	1,000			
	資本金	15,000			
	繰越利益剰余金	3,000 (*)			

(*)　上記2．より。

上記Ⅵ　1．～3．より、**問4**損益勘定及び決算残高勘定を作成する。

解答上のアドバイス ⑨

解答上は、実際に決算振替仕訳を計算用紙等に書き出す必要はなく、決算整理後の各勘定残高(*)を記入して行けば、損益勘定及び決算残高勘定を作成することができる。

(*)　繰越利益剰余金勘定については資本振替後の残高（後T/B 1,900＋当期純利益1,100＝3,000）